



Plan Do See

「朝日町の宝」に声かけを！

教育長職務代理者 瓜生 紘子

少子化が進むにつれ、戸外で遊んでいる子供達の姿などほとんど見る事がなくなった。時々、スクールバスを待っている小学生を見かけることぐらいである。

「おはよう。」「おはようございます。」と元気な声が飛んでくる。四人の男の子が付き添いのお母さんと一緒に立っている。幼さが残るかわいい仕草の低学年の子と目が合い、思わず声をかけた。「こないだ公民館で、絵見たよ。上手に描けていたね。すごいね。」と言うと、少しは

にかんだ感じで、にっこりと笑顔を見せてくれた。横から上級生が大きな声で「〇〇君、学校で金賞もらったんだよ。」と話しかけてくれた。ゆっくりと話す間がなく、そこにバスが到着し「行ってきます。」と手を振りながら、車内に入った。朝一番に元気な子供達の笑顔に触れ、清々しい気持ちにさせられた。

「子供は、地域の宝」と言われて久しい。いつの世も、子供達の笑顔、元気な声、一所懸命頑張っている姿は、周囲の人に喜びと感動を与えてくれるものである。

そんな子供達に、大人の一人として心の底から「よい子だね。すごいね。頑張ってるね。」など、しっかりと気持ちを伝えているだろうか……と気になり、何となく後ろめたい思いにかられたのである。誰もが、いつでも、どこでも、ごく自然に交わす声かけこそが、心をつなぎ、育ちを支えることであることは言うまでもない。しかし、現実には、少子化が進み、核家族化が普通の世の中になった今、どこの子供さんなのかもわからないくらい、交流がなくなっているのである。このままでいいのだろうか、何か交流の場を模索しなければならないのでは……などと、つぶやいている自分がいた。

「子供が大好きである。」子供は、周囲の人から、褒められたり、励まされたりすることによって、とっても嬉しい気持ちになる。それを自らの「誇り」と感じ、「自信」を持つのである。そして、「自己肯定感」を深め、やがて来る思春期の揺れに負けない「心の支え」になるのである。

毎日のように目にする悲惨な事件・事故を知るたびに考えさせられることがある。大切なことは、地域社会において「孤立した家庭」があってはならないこと、また集団にあっては、「ひとりぼっち」にさせないことである。問題の背景から見ても、起こるべくして起こった感じがして、とっても残念に思われる。子供達は、地域において安心と信頼が約束されてこそ、本当の笑顔を見せてくれるのであり、心の居場所が求められている。

「悪い子なんてどこにもいません。」また、「我が子の幸せを願わない親はいません。」もしかして、迷っている子供がいたらその子の気持ちに寄り添い、少しでもわかり合おうとする大人の存在こそが大切なのである。どうか、輝いている「朝日町の宝」にエールを！



「若い先生方へ」

さみさと小学校 内山 真之

先日、大学の公開講座でこんな質問をされました。「あなたは、iPhone17が欲しいですか？」変化のスピードが加速度的な今、革新的に物も変わり続けていますが、iPhoneが17まであるはずがないというメタファー（隠喩）でした。

さて、私たち教員の世界はどうでしょう。極端に言えば、教員総入れ替え期です。新たな学校モデルを創っていくチャンスでしょう。ですから、私は若い先生にとっても期待しています。実際、新採2、3年で驚くほどの学級経営をされている方にも出会います。書店には教育書が続々並び、学習会が各地で開催され、ネットでも惜しみなく実践が公開されています。その気さえあれば、教師として成長できる、いろんなチャンスが用意されています。

ドローンが空を飛び、車の自動運転化の完成をメーカーが競う今。SMA Pが歌ったように、明らかにあの頃の未来に私たちは立っています。それなのに、あなたが私たちに教えられた、かつての手法で「これから」を生きる子供を「教えよう」とするのはどうでしょう。「学校とはこういうもの」「教員とはこういうもの」そんな思い込みと「視野の狭い色眼鏡」で見るなら、あなたじゃなくてもいいかもしれません（笑）。そう考えると若いかどうかよりも、「学び続けている」若かったり、あるいは若くはない先生方に期待したいと思います。

21世紀の学校を創ろうとするなら、これまでの教育ではどんなことが蓄積され、学校の外ではどのような学びがなされ、未来はどうなっていくと予測され、そこで必要にされることは何なのでしょう。広い視野をもって、おじさんたちを軽々と超えて行ってほしいと思います。

私はこの原稿をiMacで書いています。iMacが登場してから17年が経っています。ひょっとしたら、iPhone17は未来にあるかもしれません。いつの時代も、いいものはあり続けるものですから。



おしらせ

朝日中学校で長年、美術科を担当されていた林和子先生から書籍を寄贈していただきました。

「酒井式描画指導法入門」

「ワーク版酒井式描画指導法入門」

「ワーク版酒井式描画指導法入門第2集」の3冊です。

新潟県村上市の元小学校教師の酒井臣吾氏が生み出した描画指導法のシナリオ（指導案）とワークシート集です。「かたつむりの線」のように描くことによって、「その子なりの最高傑作」をつくらせることを目的として書かれたものです。子供たちの感性が乏しくなってきたように感じるこのごろ、限られた授業時間で、作品を完成さなければいけない私達には、最適な3冊といえます。ワークシートをコピーしてお使いください。

インターネットから「先生のための教育事典 EDUPEDIA」というサイトがあります。多岐にわたる項目の実践例が紹介されています。ご活用をお勧めします。

「棒高跳びの棒」

朝日中学校 上田 美穂子

ベテランと言われる教員は何事にも慌てず悠然と構えていて、誰からも頼りにされる存在であると思っていました。しかし、おそらくはベテランと言われていると思われる私は未だに迷いと後悔の日々です。挑戦とか工夫とか進化の毎日と言いたいところですが、それは憚られます。保健委員会の生徒たちに毎年言うことがあります。「去年はしていなかったのに、去年もしたから、とは言わない。同じ取組でも何かを変えよう。」具合が悪くて保健室に来ている生徒が次の授業に出ようかどうしようか迷っている時にかける言葉は「迷うときは行ってみよう。やってみよう。」です。これは自分への言葉でもありました。



養護教諭になって間もない頃、学生時代の友人が「私たちの仕事って棒高跳びの棒のようなもの」と言いました。それ以来私の目標は「棒高跳びの棒」でした。私は今までに、傷つき悩み自己肯定感を低下させ、生活に必要なエネルギーさえもなくしてしまった生徒を何人か見てきました。再びエネルギーが蓄えられることを信じて、一緒に過ごしていました。その間に生徒から学ぶこともたくさんありました。その生徒がいつの間にか来なくなり、行事などで生き生きと活躍している姿を目にすることがありました。彼は、彼女は、鮮やかに跳んでいっていました。私は棒高跳びの棒になれたかなと思うのは、そのような時でした。棒はバーの向こう側にはいきません。

いつも周りの人に支えられてここまで来ることができました。幸せな教員生活だったとたくさんの人に感謝します。

「10年を振り返って思うこと」

朝日中学校 上田 勝

まだ幼い頃、遠足の日やカブトムシを捕まえにいく日の朝には、期待と興奮からか、いつもより早く目が覚めてしまうことがあった。今年度、あの頃と同じような気持ちになったことがある。三年に一度の学園祭である。生徒と一緒に準備や練習をすることが楽しくて、そして嬉しくて、いつもよりも朝早く目覚める日が続いた。「まさかこの年になって……」と何だか嬉しいような、恥ずかしいような、そんな気持ちになった。



朝日中学校に着任して10年が経とうとしている。振り返るといろんな変化があったように思う。校舎、生徒、保護者、そして自分自身も。

着任当初、一番悩んだことは、生徒指導についてであった。初めての中学校勤務で自信もなく、ただ部活動だけしていたい、そんな私のことを生徒は的確に見抜いていた。当然、私の指導が生徒に受け入れられるはずはなかった。苦しい時に助けてくれたのは、やはり先輩の先生方であった。生徒会活動を活発にし、学校行事に全力を尽くす。学習も決して妥協しない。生徒と共に活動することがこんなにも楽しいことであること、そして喜びや感動を共有することが、そのまま生徒指導にもつながるということ、その指導している姿から教えていただいた。

本気で取り組むから成功する、全力を尽くすから楽しむことができる。これらのことを生徒も先生も実践してきた朝日中学校を心から誇りに思う。稚拙な言葉かもしれないが、「いい学校だな」としみじみと感じている。朝日中学校で勤務できたことに感謝したい。

朝日町教育委員会派遣内地留学

■期間：平成27年9月1日～11月30日 場所：上越教育大学

「内地留学を終えて」

あさひ野小学校 横山 亜希子

平成27年9月1日から11月30日まで、上越教育大学へ研修へ行って参りました。

この3か月間の研修では、学級づくりに焦点を当てたいと思っていました。それは、これまでの自分の学級づくりに不安や焦りを感じていたからです。そこで、赤坂真二先生を訪ね、特別活動を窓口とした「クラス会議」による学級づくりを学びました。

「クラス会議」の有効性について裏付けされたデータから捉えることができ、学級づくりには「クラス会議」は欠かせないという結論に至りました。「クラス会議」では、話し合い活動を通して、生活改善を目指します。また、所属感や自己有用感や他者理解、自尊感情を高めることができます。



ところで、赤坂研究室にはキーワードが三つあります。「主体性」「対等性」「同僚性」です。研究室の目立つところに掲げてあります。研究室には、学部3年生4年生、院生1年生2年生（学部からストレートで進学した人もいれば現職の院生もいる）、私のような短期間の研究生もいます。このように、年齢層は様々ですが、週1回のゼミや情報交換では、年齢や現職か学生かに関係なく自分の思いや考えを自由に進んで

話します。また、研究は一人のものではなくみんなと共同していくものと考えるなど、主体的で対等で同僚性があると感じられるのです。

しかし、このような雰囲気は自然とつくられるわけではありません。意図的に手立てが講じられています。赤坂研究室のリーダーとなる赤坂先生はもちろん、ゼミ長や副ゼミ長が、リーダーシップを発揮して、研究生が気持ちよく過ごせるようにしてくれるのです。そして、周りの学部生も院生も協力します。

例えば、月に1度の親睦会や不定期に行われるレクリエーション等は、温かい人間関係を生み、「チーム赤坂」をつくります。そして、自分たちの研究の問題解決に大きく影響を与えてくれるのです。頼もしい同僚がいることや悩みを共有してくれる仲間がいます。

このことは、学級づくりの場面にも通じると考えます。問題解決のためには、教師と子供の信頼関係づくりと子供同士の信頼関係づくりが不可欠です。学級づくりの基礎・基本となる人間の信頼関係を築きながら、「チーム」をつくり、「クラス会議」の実践を続けていきたいと思えます。



おわりになりますが、このような貴重な機会を与えてくださった朝日町教育委員会教育長永井孝之様、教育委員会の皆様、そしてあさひ野小学校校長松原隆志先生をはじめ教職員の皆様に感謝申し上げます。

今年度の研究

■学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業実践研究拠点校

「子供たちの笑顔のために・・・」

さみさと小学校 伊藤 美静

本年度、本校の研究主題は、昨年度より引き続き「一人一人が豊かに関わり合いながら、学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる子供の育成」としました。今年度は「学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業」の実践研究拠点校の指定を受け、年度初めにはどのように研究を進めていくかを十分に話し合いました。その結果、「見通しをもつことができるような単元構想を工夫する」「学びの基礎となる学習規律の確立と学習における成就感や達成感を味わうための温かい人間関係をつくる」「個の学びに応じた教材・教具を工夫する」「習得した力を活用し豊かな表現力につながるような学習展開及び教育活動を工夫する」ということを共通理解しました。具体的な取組としては、次のようなことが挙げられます。



- ・ どの子も見通しをもって学習を進められるように、学習の流れをパターン化したり、課題提示の仕方を工夫したりする。
- ・ 互いの思いを十分に表現することで学習意欲を高められるように、ペア学習やトリオ、グループ等の話し合い活動を取り入れる。
- ・ 自分の学習を見直し、「分かったこと」「できたこと」が確認できるように、適用問題や学習の振り返りを行う。



これらのことを含め、研修を深め共通実践してきたことで子供たちは互いに学び合い粘り強く学習する態度が育ってきています。また、2学期には学力向上研修会として講師を招き研修講座を2回行いました。その中で、「子供たちが自ら学ぶ姿勢をどのように育てるか」ということについて具体的な例を挙げながら教えていただき、その後の授業研究での実践へとつなげることができました。

そろそろ今年度も終わりに近づいてきましたが、この一年間の研究を通して強く感じたことがありました。それは「学び合い、高め合い、共に実践したい」と、本校の先生方自身が心から願っているということです。教師として、子供たちの「分かった!」「できた!」という声と笑顔のために常に前向きに研修に取り組む姿。その真摯な姿勢が子供たちに響かないはずはありません。

「みんなでまめなけ あさひ野っ子」 あさひ野小学校 兵庫 秀典

今年度、あさひ野小学校は、小学校教育研究会研究推進校としての指定を受け、研修主題に「主体的に実践していく子供の育成 ～心と体の健康づくりを通して～」を掲げて取り組んでいます。前年度の定期健康診断や富山ゲンキッズ作戦の結果、日頃の子供たちの様子等を基に本校の健康に関する課題を設定し、子供たちが自ら課題を解決しようと主体的に健康づくりを行う資質や能力を身に付けることを目指して研究を進めています。

心と体の健康づくりに取り組んでいくためには、子供・保護者・教職員の方向性を合わせる必要があると考え、そのためのキャッチフレーズとして、「みんなでまめなけ あさひ野っ子」を設定しました。それを基に、児童会の各委員会が全校に健康に関する様々な取組を働きかけたり、健康づくりに関する掲示や活動場所をワークスペースや廊下等に設置したりして、子供たちの健康づくりの意識を高めています。

3年生の実践「まめなけ作戦 ～よいしせい～」では、耳・肩・腰の3点にシールを貼った一人一人の姿勢写真を見せたことで、子供たちは自分の姿勢を客観的に見ることができ、自分の課題を捉えました。それにより主体的に学習に取り組むことができ、よくない姿勢で苦しさを覚える体験や、背骨の模型が子供の頭と同じくらいの重さの米袋を乗せることで湾曲する実験から、姿勢の大切さを、実感を伴って理解することができました。



5年生の実践「けがの防止 ～まめなけ安全隊～」では、保健室での手当てを受けた記録を活用したことで、子供たちは自分たちの生活を振り返り、全校で安全な行動をしようとする意欲をもつことができました。その中で、校内地図を活用して自分の「けがマップ」を作成したことは、子供たちが自分のけがを振り返り、けがの防止について真剣に考えるきっかけとなりました。



来年度に向けて、本校では富山ゲンキッズ作戦や生活習慣に関する各種のアンケートから子供たちの実態を改めて捉え直し、子供たちが主体的に実践していくための手立てを検討しています。そして、子供たちが主体的に

心と体の健康づくりに取り組んでいくことができるよう、さらに研究を積んでいこうと思います。

教育雑誌から 『月刊生徒指導』2月号では「いじめ対応の新しい視点」と題して特集を組んでいる。「いじめか喧嘩か」という議論をするまでもなく、暴力行為として指導しなければならないと言っている。「いじめ対策法」施行後は、「知らなかった」では済まされなくなったとも言っている。

新年度の計画を立て、準備を始めよう

4月に新しい学年が始まります。新たなスタートを切ると「今年はこんな1年にしよう」「こんな学級にしよう」と新たな目標を立てます。ですが実際、年度当初は、いろいろな仕事が入ってきて、気持ちとは裏腹に前年度の踏襲に陥りがちです。結局は仕事に追われる毎日となり、次々起こる問題に振り回されることになりがちです。「現状維持」はまさしく「後退」にほかなりません。

今だからこそ、今年1年を振り返り、来年度の準備をしましょう。そうすれば万全の体制で自信をもって子供たちを迎えることができ、子供たちの新たな気持ち・期待に応えることができると思います。

そのために参考になると思う本、DVD等を紹介するので、ご活用ください。

学級開き



中学校 学級経営は最初の1ヶ月間で8割が決まる
必ず成功する「学級開き」魔法の90日間システム

著者 堀 裕嗣 発行 明治図書

小学校、中学校と問わず、学級担任にとって学級開きは、子供たちとの初めての「出会い」であり、夢と希望をもたせるものになりたいと願っていないものはない。しかしながら、離任式、着任式をはじめ、配布物をもれなく配ること、提出物の回収等に追われ、通り一遍になりがちである。そうならないために、

理論を身に付け、今から準備を始めよう。

本書は中学校の学級担任向けに書かれた初めての「学級開き」の本である。著者が提唱した「3・7・30・90の法則」に則って、実践した学級・学年経営の事実が具体的にかつその背景にある思想・考えも含めてことこまかに書かれてある。「クラス全員がやり方を知っている状態」がないから少しずつ崩れていき、果ては学級経営が失敗するといひ、早くルールを定着させ、システム化する必要があると説く。生徒指導から授業のシステム化まで、実践に基づいて書かれてあるので、ちょうど今の時期に学級・学年経営の成果を振り返り、来年度の指針とするべき一冊である。

【書評・学んだこと】

【朝日中学校 相田 健悟 教諭】

具体的な事例について理論で紐解くように記してあり、初めて担任した今年度の学級を振り返りながら読むことができました。特に心に残ったのは「教師が生徒たちに最も大きな影響を与えるのは、『指導力』よりむしろ『感化力』」という一文です。学級経営の方策のみならず、教師の在り方まで考えさせられる一冊でした。

【朝日中学校 阿部 伸彦 教諭】

学級のルールを確立するには教師主導でルールを決定することが大切である。日直や給食当番・清掃当番については生徒の意見を聞いてはいけない。それが、その後一年間の指導の基盤、生徒達の公正・公平な生活の基盤となるためである。

生徒の問題行動は即時対応が重要。厳しい指導をしたときほど、即座に電話連絡が大切である。とくに年度当初は最優先に生徒のトラブルに対応・解決していくことで生徒や保護者との信頼関係を築く上で大事なことである。

「どんな学級になって欲しいか」「生徒に、どんな大人になって欲しいか」という願いをもって学級運営を行うことが大切だと学んだ。筆者の堀先生は座席配置を一つとっても、男女の座席をジグザグにすることによって、班活動において自然に異性と交流できる人間になって欲しいという願いを込めていた。

来年度、担任をもつにあたって、まずは自分自身の教育観(生徒への願い)をしっかりと見つめ直し、4月を迎えたい。

小中学校学級を最高のチームにする極意
最高のチームを育てる学級目標

編著者 赤坂 真二



「最高のチームを育てる学級目標」をテーマに、集団づくりにおける学級目標の意味と役割を徹底解説。「作成マニュアル&活用アイデア」で、学級目標をチームづくりに活かす具体的な活動の流れを丁寧にナビゲートしました。学級を最高のチームに育てるアイデアが満載！

(明治図書 ONLINE より)

小中学校学級開きにはセオリーがある
成功する学級開きルール&アイデア事典

編著者 静岡教育サークル「シリウス」



1年間の学級経営を決定づける、学級開き。漫然と4月を迎えては、いいクラスづくりはできません。春休み中にやるべきことから、初めての出会いのシナリオ、学級目標のつくり方や係活動・当番活動がうまく回るコツ、保護者対応まで、効果抜群のアイデアが満載！

(明治図書 ONLINE より)

道徳・特別活動



小学校高学年・中学校DVD 字幕版付 指導案・ワークシート付

「このマンガがすごい2015」第1位実写教材化

監修：(一財)全日本ろうあ者連盟 制作：東映教育映像部

週刊少年マガジンに連載された「声の形」の舞台を小学校から中学校に変え、ドラマ形式にして教材化したもの。「いじめ」や「障害者との共生」などをテーマにした作品である。

将也のクラスに転校してきた梢子は聴覚障害者だが、筆談ノートを通して積極的にクラスメイトに関わろうとする。はじめは好意的に受け入れていた将也やクラスメイトだったが、梢子が原因で授業が遅れたり、筆談ノートの煩わしさで徐々にストレスになっていく。合唱コンクールで優勝を逃したことで、ついに梢子はいじめられるようになっていく。梢子を守ろうとする学級委員。担任のいじめの追求を逃れようとする女子生徒。そして、梢子が額を切るけがをする最悪な事件が起き、標的は将也へと変わっていく。

生徒にとっては「いじめのメカニズム」を知り、「いじめに悩む人の気持ち」を想像したり、「いじめを防ぐ方法や加害者に対してどんな行動がとれるか」など考えるのによいと思う。

また、障害者等との「共生社会」を目指して、インクルーシブ教育システムの構築が求められているなか、教室の中で子供の教育的ニーズに答えるためにどんな指導と支援が必要かを考える契機となると思う。

教材としてでなくても、短編映画としてみても、十分感動できる作品である。

【朝日中1年1組 生徒の道徳ノートから】

- ・人にはそれぞれ個性があって、その個性を笑ったり、からかったりしたら、相手がとても傷つくことがわかったし、そんなことは、絶対にしないでおこうと思いました。個性はそれぞれ認め合っていくものだと思います。
- ・将也は、転校する前の梢子に「信じていたから」と言ったのだと思います。梢子は哲也のことを心のどこかで「いつかわかってくれる」と思っていたのだと思います。
- ・西宮さんがいじめられなくなった後、毎朝早く来て将也の机を拭いているのが印象的でした。もし嫌なことをされても、西宮さんみたいに前向きで心の広い人になりたいと感じた。
- ・いじめには、いじめる側といじめられる側があるけど、いじめる側はどんなことを思っているのか、なぜ周りの人は止めようとならないのか。



2月1日(月)1限「道徳」宮野教諭

各教科・授業力アップ



小学校・中学校 DVD 東書ニュービデオソフト 理科映像データベース(指導用教材)

制作・著作 東京書籍

直接観察することが難しい自然現象や、さまざまな制約により、実演するのが困難な実験のようすなどはもとより、基礎的な技能などについても収録してある。

映像は題材ごとに数十秒～10分程度で構成してあるので、授業展開に合わせて効果的に活用できるようになっている。ハイビジョン画質で撮影してあるので、生徒の理解の手立てになると思う。

中学校理科

- ⑥いろいろな力
- ⑭天気の変化
- ⑦火山と地震 (H28年度購入予定)

小学校理科

- ①こん虫と植物
- ②太陽とかけの動き・日光のせいしつ・太陽と地面のようす
- ⑧月や星
- ⑪植物の発芽と成長・魚や人のたんじょう
- ⑬天気の変化
- ⑭流れる水のはたらきと土地の変化
- ⑰土地のつくりと変化
- ⑳太陽と月

【朝日中・山本教諭の使ってみての感想】

- 実験の正しい結果の出るところを全員が見て共通理解をすることができる。そのため実験結果を踏まえた次の内容にスムーズに移ることができる。
- 実際に触らせる機会を作れないものを短時間で見せることができ、興味・関心をひくことができる。
- 一つ一つが細切れすぎるため、見せる場面が限られている。例えば「浮沈子」であれば、水圧等の関連も解説しながら見られるものであれば、まとめて使いやすい。
- ビデオを見せるタイミングが大事になってくる。

【朝日中・生徒の感想】

- 浮沈子のビデオは握ると、なぜ沈むのか不思議だった。バネのビデオは記録の取り方が工夫されていると思った。
- やじろべえのビデオは両方のドングリは同じ重さでつながっていることがわかった。
- バネの種類によってのび方が違うので、びっくりした。
- 自分たちのやった実験が丁寧で詳しくて、わかりやすかった。
- 魚型の醤油入れに水半分とナットをつけてペットボトルに入れると、なぜ浮くのか不思議だった。

中学校・教員 DVD NHK 中国語副音声 新漢詩紀行 全十巻

監修・解説 石川 忠久



「春眠暁を覚えず」(王維「春暁」)の名句は誰もが詠んだことがあるだろう。1句1句に込められた情景が思い浮かべられるようになっている。

小・中学校 DVD

昭和30年代の生活と文化 北陸・岐阜編

制作 東映教育映像部

昭和30年代の世相、生活や文化などの貴重な映像が残されている。「日本の諸地域/地域の歴史的背景」などの学習に使える。

小・中学校 音楽鑑賞 DVD NHK交響楽団 オーケストラ入門

監修 池辺晋一郎 発行 NHKエンタープライズ



音楽の演奏形態として、オーケストラは最も魅力的なものでしょう。大勢(100人超)がそれぞれの楽器を駆使し、一致団結して音楽を作り上げるのですから。(監修者より)

小・中学校 DVD NHK

道徳ドキュメント第2期 第2・3巻

企画・制作 NHKエデュケーショナル



第2巻 『人生はチャレンジだ』

第3巻 『人とつながる』

「家族ではないけれど」

「悲しみをくり返さないために」

「あやちゃんの卒業式」

ソーシャルスキルトレーニング



小学校中学年～中学校 SSTボードゲーム 2～6人 『フレンドシップアドベンチャー』 自分らしく友達とつきあう力を育てるゲーム

自分らしさに気づき、自信をもって友達づきあいができるようになるために、開発されたゲーム。カードは「オリジナリティ」「尊重し合おう」「自信を持つ」「勇気を持つ」「ストレスに強くなろう」の5つに分けて組み立てられている。また子供たちが日常体験しているトラブルを「授業中」「休み時間」「クラブ活動」「登下校」「休日」の5場面に盛り込み、200枚のカードにしてある。すごろくのように順番にさいころを振り、駒を進め、5つの島を冒険してカードをクリアしていきながら、トラブル解決に必要なソーシャルスキルが学べるように組み立てられている上、普段は照れくさくてなかなか話せない「自分」について語るカードも盛り込まれているので、自己理解・他者理解が促進されるようになっている。



【授業の成果・感想】

【朝日中学校 1年1組担任 宮野 哲章 教諭】

授業の最後にシェアリングをして、学んだこと、考えたこと、感じたこと、気付いたこと等を振り返りました。あるがままの自分を互いに語り合っただけで感情を交流し、共有することで人間関係がより深まることを直に感じる事ができ、私自身にとってもとても良い機会となりました。

【朝日中学校 1年2組担任 川村 直弘 教諭】

みんなで協力して準備と片付けを行うのはもちろん、仲間の意見に「なるほど」「わかる、わかる」といった共感する言葉も多く見られました。また、悩んでいる生徒の回答をみんなで考えるという場面もありましたし、手が届かない仲間の駒を動かしてあげている生徒も多くいました。一緒に活動する仲間のことを思いやった場面が多く見られ、担任として、生徒たちの成長を感じられる、すばらしい時間になりました。

【朝日中学校 1年3組担任 相田 健悟 教諭】

「SST」と聞いた時、『なにをどうすればいいのだろう』と不安に思いましたが、教材を開くとすぐに期待感に変わりました。実際の授業でも、いつになく自分を考えを発言したり、仲間の個性的な意見にワクワクしたりしている生徒の様子を見ることができました。ゲームを通して自然と育てたいスキルが養われる教材であることを実感しました。また担任として、生徒同士の関わりの在り方を見つめ直す良い機会にもなりました。

【朝日中 1年生 生徒の生活ノートから】

- ・グループの人と仲良く活動ができたし、今まで以上にお互いのことが知れたので良かったです。
- ・友達と楽しく過ごすことができたし、個性がわかり、これからはもっと仲良くなれるような気がしました。
- ・誕生日で分かれたので、なかなかしゃべることのできない人となれてよかったです。
- ・全員で共感するものもあり、みんなで考えながら楽しくできたのでよかったです。
- ・カードに書かれていたことも「どうなんだろう」としっかり考えながらできたのでよかったです。
- ・友達と意見を言い合い、楽しく活動することができたので、よかったです。共感できる場所や「自分とは考えが違うな」というところがあり、おもしろかったです。
- ・ゲームの中では強気なことが言えたけど、本当に起こったときは、「自分はそんなことが言えるかな」と思いました。
- ・活動を通して今まであまり知らなかった一面を知れたし、楽しく活動ができてよかったです。
- ・友達の意見を聞いて、それについて考えることができたのでよかったです。

生徒指導・生徒理解・学級経営

小・中学校 謝罪事件から見た新モンスターペアレント問題 なぜあの保護者は土下座させたいのか

著者 苦情・クレームアドバイザー 関根 眞一



「保護者対応」は2010年以降セカンドステージに入ったという。クレームの「手段」と「目的」を見極め、上達したクレーマーに表面上ではなく、一段上の解決策を述べている。

クレームを「子供人質論」「暴力等による脅し」「精神的な脅し」「集団心理」「入れ知恵・経験」の5つの手段と「排除」「マウンティング」「利益・金品」「制裁」の5つの目的に分けて、学校事例別に分類している。

解決のためには、手段に惑わされず、いかに早く目的を見切って対応するかが重要だとし、また組織一丸となるのが最も重要だと説いている。

※姉妹編「なぜあの教師は保護者を怒らせるのか」も併せて読むとよい。

小・中学校 データが覆す教育の「定石」 「学力」の経済学

著者 教育経済学者 中室 牧子



成功体験や主観に基づく逸話ではなく科学的根拠に基づく教育を提唱し、教育の効果は数字で測れ、因果関係を明らかにすることが重要だ述べている。そのため様々な実験を行っている。なかでも興味深いのは、第2章の「子どもを“褒美”でつってはいけないのか」の中の「ご褒美は、『テストの点数』ではなく、『宿題をする』『読書』に与えるべき」、第3章の「“勉強”は本当にそんなに大切なのか？」の中の「『自制心』や『やり抜く力』などの非認知能力は学校で多くは身につく、部活動等はそれを鍛える手段である」や「しつけを受けた人は年収が高い」である。他にも「目から鱗」のデータが満載である。

小・中学校 教育現場でのクレーム対応 教育対象暴力

近畿弁護士連合会 民事介入暴力及び弁護士業務妨害対策委員会 編



本書は、子どもの学習権の充足のために、教師が保護者等からの不当要求に強い心で自信を持って対処するために書かれた本である。学校は理不尽な抗議には毅然とした態度で臨むべきであり、訴訟と言われても決してひるむなと言う。学校や教師に対する要望は多岐を極めており、このままでは教師は疲弊し良質な人材が教職を希望しない事態を筆者は憂慮している。

88の事例を6章に分け、それぞれに「論点」「対処法」「法的義務」について述べている。なかでも「部活動と学業の両立ができない」や「自転車通学を認めるよう要求」「担任を変える」などは「似たようなことがあったよな」と思わず呟いてしまう。報道で見聞きする教員の事件・事故を対岸の火事と思わず、いつ我が身に降りかかってもいいように手元に置いておくべき一冊である。

小・中学校 学校はなぜ目を背けたか 大津中2 いじめ自殺

著者 共同通信大阪社会部

いじめを苦に自殺する事件が後を絶たない。大津中2自殺事件を機に「いじめ法」が施行されたにも、である。今一度当時何が起きていたかを知り、事件から「いじめ」とは何かを、学ぶべきである。

加害生徒の非人間的行為は、生徒の自殺後の机でトラップをするなど、事細かに書かれてある。その皇子山中バレー部はその年近畿大会では、心ないヤジの大合唱の中、決勝で敗れた（その後全国制覇）。私達教師は「きつくてもやるべきことをやらないと、後に取り返しのつかない大きな禍根を残すこと」になるということを本書は示している。

小・中学校 反抗期と思春期の子供へどう対処するか 10代の脳

著者 フランシス・ジェンセン博士ら



子供の思春期の「突拍子もない行動」は脳が発達途上だからおこる。知識という「武器」を身につけ、愛情を持って対処すれば子供は問題を克服し、立派に成長すると述べる。「脳が完全に成熟するのは20代半ば以降で感情をコントロールし、危険を察知する機能を持つ前頭葉が未完成」だという。そのため「必要以上に動揺したり、怒ったり、悲しんだりし、暴言を吐くこともそのせいである」という。また「脳細胞同士をつなぐシナプスが10代のうちに急増するので、ひとつのことに集中し勉強、運動など、ものすごいスピードで学ぶことができる一方、ゲーム・スマホ『中毒』になりやすい」ともいう。

だから「問題行動を起こしたら決して同じように感情的にならずに話を聞いてあげよう」とアドバイスをする。また「高学歴な親ほど子どもにムキになるので、女の子はきつくなり男の子は女々しくなりがちである」とも言っている。

小学校 なぜかクラスがうまくいく教師の ちょっとした習慣

著者 俵原 正仁



若い先生のために「クラスをまとめる方法」「子供の心をつかむ方法」をまとめた本。小学校向けであるが、中学校の学級担任の力量アップにとっても、必読の書である。

※筆者の「楽しい授業づくりのツボ」も併せて読むとよい。

平成27年度 朝日町小中学校研修会 委員・調査員の皆さん

□ 朝日町教育センター運営委員

校長会	代表	吉田 尚史
小教研	代表	松原 隆志
小中学校	代表	山崎 康樹
教頭会	代表	内山 真之
教務主任会	代表	大森 敦

□ 朝日町学校教育運営研修会企画委員

あさひ野小学校	松原 隆志 (会長)
朝日中学校	竹内 康彦 (副会長)
朝日中学校	谷口 正浩
あさひ野小学校	大森 敦
さみさと小学校	能登 千春

□ 朝日町学力向上推進委員会

朝日中学校	竹内 康彦 (会長)
朝日中学校	川上 淳子 (国語)
朝日中学校	山田 智徳 (算数・数学)
朝日中学校	山本 賢 (理科)
あさひ野小学校	水島 真寿美 (国語)
あさひ野小学校	兵庫 秀典 (数学)
さみさと小学校	梅津 陽 (国語)
さみさと小学校	川田 彰 (算数・数学)
さみさと小学校	太田 浩二 (理科)

□ 郷土教育教材開発研究調査員

あさひ野小学校	大野 晴美 (委員長)
あさひ野小学校	水島 真寿美
さみさと小学校	梨木 宏子
さみさと小学校	高澤 朋美
朝日中学校	川村 直弘

□ 朝日町小中美術展実行委員

朝日中学校	吉田 尚史 (委員長)
朝日中学校	山崎 美津子
あさひ野小学校	飯田 育美
さみさと小学校	能登 千春
さみさと小学校	高澤 智美

□ 情報教育研究調査員

さみさと小学校	内山 真之 (委員長)
さみさと小学校	青嶋 浩
さみさと小学校	松井 和貴子
朝日中学校	宮野 哲章
朝日中学校	木下 智玄
	山田 智徳
あさひ野小学校	山下 雄己

□ 文集「青空」編集委員会

さみさと小学校	山崎 康樹 (委員長)
さみさと小学校	四杉 貴美
さみさと小学校	鍋島 朋子
あさひ野小学校	目澤 恵子
朝日中学校	川上 淳子

□ 外国語活動推進委員会

朝日中学校	谷口 正浩
朝日中学校	嘉志魔 優作
あさひ野小学校	中島 亮
さみさと小学校	梅津 陽

□ 朝日町小中学校児童作品展実行委員

さみさと小学校	山崎 康樹 (委員長)
さみさと小学校	石浦 嘉寛
あさひ野小学校	水島 真寿美
朝日中学校	山本 賢



編集後記

2月も中旬になり、今年度ももう一月あまりとなりました。研修や活動のまとめに忙しい時期とは思いますが、今年度の反省を生かし新年度に向けて準備・計画を立ててはどうかと思います。書籍やDVDをいくつか紹介しました。また、今まで蓄積された技をぜひ次の世代に伝え残していくことをみんなで考えなくてはならないと思います。

発行：朝日町教育センター

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053-1

TEL (0765)83-0279

FAX (0765)83-0279

E-mail asahi-ec@tym.ed.jp

Webサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>